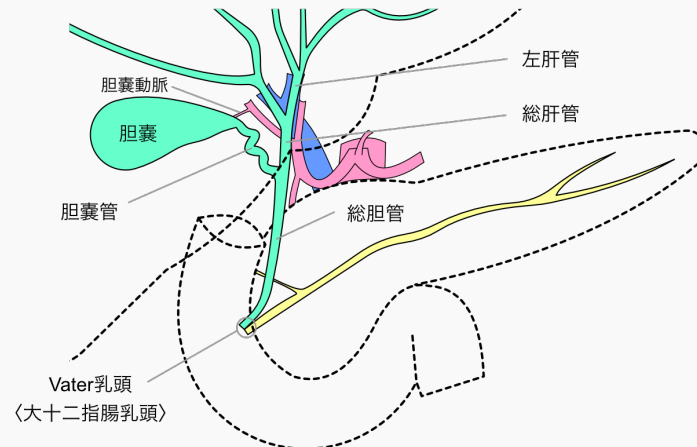


12.2 胆の解剖生理

- 胆汁は肝で合成され、毛細胆管から肝内胆管を経て左右の に集まる。これらが合流し、総肝管となる。 の合流後、 と名を変え、十二指腸の Vater 乳頭へ注ぐ。胆汁は腸内での脂肪吸収を担う。



- 合成された胆汁は内圧の差により、胆嚢へ入り、貯蔵される。胆嚢は主に食事による 刺激により収縮する。
- 胆汁は や胆汁酸、 ビリルビンから組成される。
- 胆汁により が乳化され、腸管から体内へと吸収される。
- 胆嚢壁は 上皮で構成され、粘膜筋板と粘膜 とが存在しない。また、肝床部では も欠く。粘膜上皮内には Rokitansky-Aschoff 洞と呼ばれる憩室が存在する。

問題 2

胆汁の作用はどれか。

- 殺菌
- 脂肪の乳化
- 蛋白質の分解
- 炭水化物の分解